

都市部地域包括支援センターにおける多業種間
ネットワークの構築とその活用に向けた
取り組みに対する実証的研究
～ネットワーク構造の解明とネットワーク活動の
高齢者への効果の検討～

野中 久美子 氏
高橋 知也 氏

東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム



要旨

高齢者が地域で出来る限り暮らせる地域包括ケア体制の確立が進められている。そしてその実現には、高齢者の在宅生活を支援する関係行政機関、医療機関、介護サービス事業者、関係団体により構成される専門職ネットワーク、および高齢者が適切な時期に適切な医療や介護サービスを受けることを可能にする専門職—住民・高齢者間ネットワークという2種の連携構築が必須である。本調査の対象である「おおた高齢者見守りネットワーク」(通称 みま～も)は、会員登録した地域高齢者に多様な介護予防・社会参加プログラムを提供することで、高齢者がシームレスに社会参加ができる地域包括ケアシステムを形成している。本調査は、みま～もの、高齢者の心身の健康への効果、および地域包括支援センターと協賛事業所の2者の視点からネットワークの構造を検証する。それにより他地域で類似するネットワークを構築する際に有効な要件を提示する。そのために、みま～もに会員登録した高齢者を対象とした質問紙調査、および加盟する企業・介護サービス事業所・地域包括支援センター職員を対象とした面接調査を実施した。その結果、高齢者はみま～もの活動への参加を通して地域との繋がりを感じる、外出機会が増えたといった効果を感じていた。そして、ネットワークの維持・拡大を支えるネットワーク構造として、多様な意見を効率的に集約し、ネットワーク運営に反映させていく体制が明らかになった。

1.背景

本調査の対象である「おおた高齢者見守りネットワーク(以降、NW)は、平成20年4月に東京都大田区大森地区の地域包括支援センター(以降、包括)1事業所と12名の介護保険サービス従事者を主体に、地域包括ケアシステム構築を目的として発足した地元の異業種によるネットワークである。現在は、1)大田区内3包括、2)80以上の介護・医療・福祉の専門機関や事業所、健康関連企業からなる「協賛事業所」(以降、事業所)、3)約90名の高齢者ボランティア(以降、サポーター)を有する規模に拡大した。主な活動は、地域高齢者を対象とした月例の「地域づくりセミナー」(以降、セミナー)とサロンで開催される年間200以上のミニ講座である。本調査は、みま～もの、高齢者の心身の健康への効果、および地域包括支援センターと協賛事業所の2者の視点からNWの構造を検証する。それにより他地域で類似するNWを構築する際に有効な要件を提示する。

2.方法

(1)高齢者への効果評価

平成26年9月に、サポーターを対象に郵送質問紙調査を実施し、63名(70.8%)より回答を得た。欠損の少ない60名を分析対象者とした。調査項目は①属性(性別、年齢、大田区での居住歴等)、②参加動機、③活動への満足度、④活動継続意志、⑤参加を通じた変化、⑥NWに対する要望等とした。(③～⑦はいずれも5件法)。

(2)NW構造の検証

包括2事業所の職員6名と事業所職員10名(介護事業所職員6名、地域商店街組合代表2名、健康関連企業社員2名)を対象に面接調査を実施した。調査項目は、参加動機と活動状況、参加による利益と課題、NW内での自身の役割である。

3.結果

(1)高齢者からみた効果

対象者の76.8%が活動に対し「非常に満足」、または「まあまあ満足」と回答し、89.5%が今後の参加継続について「非常にそう思う」、または「まあそう思う」と回答した。また活動満足度、および活動継続へ影響を与える要因について、⑤参加を通じた変化、⑥NWへの要望を想定し、これらを独立変数として重回帰分析を行った。その結果前者では、変化として「生活の充実感の向上」、「外出機会の創出」、「地域との繋がりの深化」、また要望として「地域参加への支援」、「勉強会やセミナーの充実」(-)、「登録者間の交流」が挙げられた(表1)。一方後者では、変化として「新たな知識・情報の獲得」、「外出機会の創出」、要望として「永続的な居場所の確保」が挙げられた(表2)。

表1 満足感に関する重回帰分析

	標準偏回帰係数 (β)	相関係数 (r)
生活の充実感の向上	.32**	.76**
外出機会の創出	.27*	.72**
地域との繋がりの深化	.22*	.73**
地域参加への支援	.27*	.59**
勉強会やセミナーの充実	-.32**	.47**
登録者間の交流	.30*	.66**
重相関係数	.90**	
R ² (調整済み)	.78	

* $p < .05$, ** $p < .01$

表2 継続意志に関する重回帰分析

	標準偏回帰係数 (β)	相関係数 (r)
新たな知識や情報の獲得	.35*	.69**
外出機会の創出	.31*	.72**
永続的な居場所の確保	.32**	.58**
重相関係数	.81**	
R ² (調整済み)	.63	

* $p < .05$, ** $p < .01$

(2)NW構造

ア NW構造

NW構造を図1に示した。NW内の多様な意見は主に事務局内のサロンやセミナー担当者およびNW執行部を務める事業所職員を通して集約されていた。また、全ての事業所に役割を分担することにより事業所間交流とNWへの一体感向上を促していた。

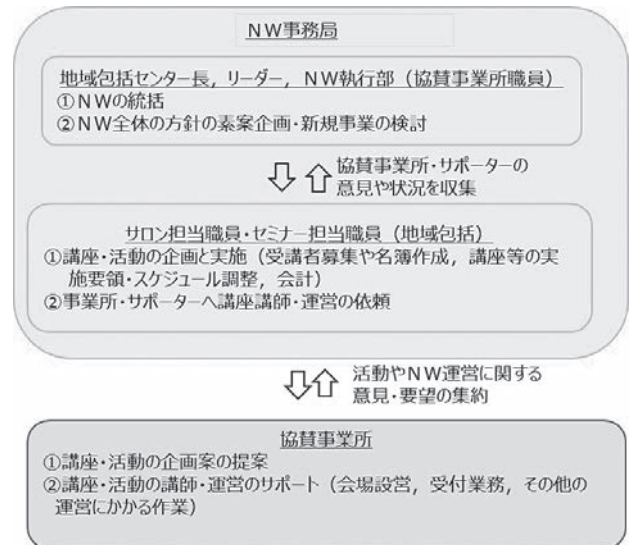


図1 みまへのネットワーク構造

イ 事業所のNW参加動機

事業所職員のNWへの主な参加動機を表3に示した。調査対象者は①～⑥の動機をNW参加時から有していた。⑦～⑨の動機は活動の企画や実施に関する話し合いや実際の運営を通して各対象者が醸成していた。ただし、NWが掲げる目標と一致していないと認識している対象者もいた。

表3 事業所の参加動機

<p>会社・事業所へのメリット・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ①高齢者や他の介護事業所への自社の宣伝 ②地域高齢者のニーズ把握 ③将来の顧客となりえる高齢者との関係性構築 ④包括や介護支援専門員との関係性構築 ⑤同業他社との交流による業界動向の把握や専門性向上のための知識や情報の学習 ⑥多職種との関係性構築による業務の拡大・効率化
<p>個人レベルの目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦類似するNWを自身の地域で展開する ⑧高齢者が住みやすい地域をつくる ⑨上記⑧による専門職としての充足感

4.まとめ

サポーターは地域との繋がりがやサポーター間交流に活動の意義を感じていた。調査対象事業所職員のNWへの参加動機は、自社への利益のみならず地域包括ケアシステム構築に資する活動への参加により得られる専門職としての充足感獲得であった。従って、事務局は単に協力者となる事業所に対して営利的な利益のみならず地域包括ケアシステムの理念理解を促す働きかけが必要と考える。